様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 12 日現在

機関番号：12401
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010 ～ 2012
課題番号：22520070
研究課題名（和文）　大韓帝国における国家学・反国家思想の受容に関する研究
研究課題名（英文）　A Study on Learning Political Science and Anti-Imperialism during the Great Han Period
研究代表者
権　純哲（KWON, SOON CHUL）
埼玉大学・教養学部・教授
研究者番号：80253178

研究成果の概要（和文）：近代的国家体制構築のさなか、侵略を露骨化しつつある日本との友好関係の維持に腐心していた大韓帝国に受容される近代学問と思想が如何なる役割を果たしたか、という問題意識のもと、とくに国家学・反国家思想の受容実態を、近代学術の伝授と受容の観点から究明しようとする本研究において、まず、「国家学」関係書籍の原書確認と対照考察をおこない、その受容実態を明かにしたのであり、つぎに、帝国主義批判書の原書確認と対照分析を通じて、近代日本の帝国主義国家思想に対する批判論の意義と韓国知識人によるその受容実態の一端を究明した。

研究成果の概要（英文）：The aim of my research is to track and clarify how Koreans learned the modern political sciences and political ideologies during the Great Han Period. This became one of the most important and serious issues of the Korean intellectual society when the Korea was confronted with the Japanese invasive policies and managed to build the political system of modern state at the same time period.

The result of this project is as follows. There are many Korean political science books which were published as translation of Japanese books. Out of which, a few translated books by Riang Chi-Chao, a Chinese exile to Japan, prevailed in intellectual societies in Korea. In addition, one of two Byon Yong-Man's books on Imperialism is uncovered as a translation of an article from a special edition of the *Tai-Yo*, a Japanese monthly journal; the other is, however, predicted to be directly translated from the English book, *Commonwealth or Empire* by Goldwin Smith.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、思想史
キーワード：帝国主義、コロニアリズム、近代学問、翻訳、加藤弘之、有賀長雄、梁啓超、ブルンチュリ

１．研究開始当初の背景

（１）韓国における近代学術の受容は、日本の近代学術の影響下で、大韓帝国期に始まり、植民地期にいちおう完成したと考える。今まで行ってきた「韓国愛国啓蒙期の翻訳書研究―明治期出版文化と関連して」「大韓帝国における日本人の学術文化活動に関する調査」「日本植民地支配時期の朝鮮思想に関する調査」「植民地末期朝鮮知識人の国家観・国民観に関する研究－『国民文学』を手がかりにして」の研究は、学術思想における日韓関係および日韓相互認識の思想的淵源を模索しようと試みたものであり、本研究は、これら一連的研究によって得られた知見に基づき、近代学問とくに国家学と反国家思想の受容様相を当時日本の学術状況と関連して究明しようとするものである。

（２）関連する今までの研究状況をみてみると、金淇周『韓末在日韓国留学生の民族運動』1993（韓文）、車培根『開化期日本留学生たちの言論出版活動研究（Ⅰ）』2000（韓文）などのような日本留学生の活動に関する研究がある一方、稲葉継雄『旧韓末「日語学校」の研究』1997、同『旧韓国の教育と日本人』1999、高崎宗司『植民地朝鮮の日本人』2002、李英美『韓国司法制度と梅謙次郎』2005 などによって、当時韓国での日本人の諸活動の実態が明らかになりつつある。また、鄭鍾休『韓国民法典の比較法的研究』1989 のような比較法研究や、金泰勲『近代日韓教育関係史研究序説』1996 のような教育史研究、李基俊『韓末西欧経済学導入史研究』1985、全京秀『韓国人類学百年』1999 のような学史研究によって、日本の影響下での近代学術思想の受容の一端が明らかになっているのが現状であるが、とくに学術思想の場合、その伝授や受容の実態は充分に究明されているとは言えず、さらなる研究が求められる。たとえば、近代日本の学術思想の東アジア諸国への伝播・拡散に関する代表的研究といえる山室信一の『思想課題としてのアジア　基軸・連鎖・投企』2001 にみるように、日・中の間の豊富な具体例と比べると、日・韓の間の事例の貧弱さは甚だしいものがある。ようするに、学術思想の受容に関する研究の現状を端的に言えば、韓国での日本研究は、いまだ成熟の段階に至っておらず、日本での韓国研究は、この課題にまで及んでいないのである。

（３）以上のような状況を踏まえて、本研究においては、知的情報の発信源にも注意しつつ、受容側に基点をおき、最近復刻された新聞・雑誌を用いて、国家学・反国家思想の伝授と受容に関する新たな事例を発掘するとともに、学知受容のあり方を社会動態のなかで考察することによって、新たな知見の提示を試みた。

２．研究の目的

近代的国家体制構築の最中にあった一方、侵略をあらわにする日本との友好関係の維持に腐心していた大韓帝国に到来する近代学問や思想が如何なる役割を果したか、また近代日本の多様な学術のなか、如何なる学知が受容されたのか、これを明らかにすることが本研究の目的である。

この目的を果たすために、書籍、雑誌、新聞などの出版物に注目する。それは、その知的情報の発信源が主として日本であったのであり、書籍も多く日本書の翻訳であったからである。したかって、まず、原書の確認ができた国家学関係の翻訳書の対照分析、団体の会報や雑誌と新聞の関連記事の分析を通じて、韓国における近代学術思想の伝授と受容の初期様相を究明するとともに、日本の近代学術思想の影響について考察した。具体的に言えば、国家学関係図書と帝国主義批判書の原書確認と内容の比較対照研究を通して近代学問とくに国家学の知識と反国家思想の伝授と受容の実態を明らかにした。

また、当時の韓国社会の動態の中で在韓日本人の学問伝来者としての役割とそれが孕んでいたや問題点の把握につとめ、受容の担い手であった韓国知識人の思想的営みの痕跡をも追跡した。

以上の作業によって明らかになってきた、近代学問とくに国家学の知識と反国家思想の伝授と受容の実態から、近代思想史研究における《伝授と受容》という新たな観点を提示した点も指摘しておきたい。従来の研究において主流を成してきた《文明と未開》《侵略と抵抗》という二項対立的見方によっては浮き彫りにできなかった学問思想の受容実態へアプローチは、日韓近代学術思想史研究に新たな試みといえる。

３．研究の方法

書籍、雑誌、新聞などの出版物を材料とするこの研究の方法としては、以下のことが用いられた。

（１）《原書：翻訳書》における語彙・文体を対照分析する。

（２）翻訳出版に際して行われた省略部分と追加部分の内容を分析考察する。

（３）学知受容のルートを把握するために、翻訳者が原書と出あうまでの経歴・活動を調査する。
（４）近代学問の供給源であった明治期日本における近代学術の実態および西洋近代学術受容の様相を把握するために、翻訳者が取りあげた原書の成り立ちを調査する。
このほか、本研究が取りあげる法学・政治学・経済学などの国家学や反国家思想の《原書：翻訳書》調査・収集・活用においては、韓国と日本の図書館所蔵の資料のコピーのほかに、各機関ホーム・ページにて公開されている電子ブックが寄与したところは大きかった。

４．研究成果
上記の目的と方法によって進められた本研究の成果について、以下、次項に記した三本の論文を中心にして、その概略を述べておきたい。
最初の研究成果として、「国家学」関係書籍、とくに「法学通論」「国家学」「憲法・国法学」書籍 11 種の概要を紹介し、その原書との対照作業を行うとともに、その原書の正体を実質的に確定し、またはその原書の推定を行った。
まず、語意の対照によっては、近代学術用語を受容する際にみられる、翻訳者の戸惑いや混乱の痕跡を確認でき、翻訳書にみられる原文の省略と追加記述の存在からは、受容する側の意図や目的の所在を確認することができた。
また、これら「国家学」関係書籍においては、①日本留学経験者が自ら学んだ教材からの翻訳が存在すること、とくに東京法学院（中央大学）、東京専門学校（早稲田大学）の講義録からの翻訳、同校教員著書からの翻訳であること、②日本亡命中の梁啓超が漢訳したものからの重訳であること、すなわち梁啓超が横浜で発刊していた『新民叢報』や『清議報』に翻訳連載した記事からの翻訳であることが明らかになり、そのいっぽう、③日本留学経験者の多くが教鞭を執る普成専門学校卒業生による日本人著書の翻訳事例にも注目した。
以上のことを論じたのが、下記論文（３）「大韓帝国期の「国家学」関係書籍について」である。
いっぽう、「国家学」の場合、ブルンチュリ著書の日本語訳（加藤弘之と平田東助）と日本人による漢訳（吾妻兵治）および梁啓超の漢訳があるなか、これらの書籍の成り立ちや相互関係に対する誤解と認識のズレが先行研究に多々みられ、それを正しておくべく、また、新たに確認できた原書につき考察し、その著者有賀長雄に関連した補足的考察を行うべく、下記論文（２）「大韓帝国期の「国家学」書籍におけるブルンチュウリ・梁啓超・有賀長雄の影響」を発表した。
そこでは、①ブルンチュリ著に由来する加藤弘之と平田東助による日本語訳『国法汎論』と平田東助による日本語訳『国家学』の原書が異なること、②これらとブルンチュリ生前最終版『Lehre vom modernen Stat 近代国家学』とはまたも異なることを明らかにし、③東京専門学校において『Lehre vom modernen Stat 近代国家学』が教材として用いられたことを、④韓国語訳とこれらブルンチュリ「国家学」との影響関係の一端を明らかにした。とともに、⑤未詳のままであった翻訳書『国家学』の原書が有賀長雄の同名書であることをも確定し、考察することができた。ついでに、政治学分野の教育研究に力を注いでいた東京専門学校のちの早稲田大学の影響についても考察を加えることができた。
最終年度の研究成果となる下記論文（１）「卞榮晩訳『世界三大怪物』と『二十世紀之大惨劇帝国主義』について ― 大韓帝国知識人の帝国主義理解の一端」においては、二冊の帝国主義批判書を訳述した卞榮晩の生涯と活動を整理するために、彼が学んだ法官養成所と普成専門学校について調査整理し、また学会活動にみられる彼の「国家学」関係記事を翻訳紹介し、特記すべき弁護士としての活動にも言及した。
そのなかで、とくに①法官養成所の設立当初、教官をつとめていた日本人が閔妃殺害事件に関与したがゆえに退去処分となり、それが法官養成所の長期間の閉鎖につながったこと、②再開した法官養成所を卒業してから再び普成専門学校に入学し、日本留学経験者の薫陶を受けたことを確認したのであり、③卞榮晩の判事辞職の理由が、日本による韓国司法権剥奪にあったことを明らかにし、その辞職時期を推定することができた。また④英文書を直接翻訳できるほどの英語力を身につけていたことを、植民地期に北京で開かれた国際弁護士会出席の際に司法教習所で英語での講演を行った事実を発掘し、推定することができた点は特記しておきたい。
つぎに、卞榮晩が訳述した帝国主義批判書の原書を推定し、または確定した。
卞榮晩訳述『世界三大怪物』については、Smith, Goldwin 著 Commonwealth or Empire との主要内容の対照分析を行い、この一冊は卞榮晩自身による訳述であると推定することができたのであり、「世界三大怪物」という訳述書名においては、幸徳秋水の『帝国主義』の副題「廿世紀之怪物」からの影響の可能性を提示した。
もう一つ『二十世紀大惨劇帝国主義』の原書は、博文館発行雑誌『太陽』臨時増刊号収録の一記事「帝国主義」であることを確定し、

内容分析においては、記事「帝国主義」の引用書から当時列強の世界政策とそのなかにある帝国主義に対する言説の調査をも行うことができた。

さらに補足的考察として、明治日本にあった帝国主義批判論のうち、注目される一例として山口義三著『破帝国主義論』の韓国観を紹介しておいた。

以上、研究成果の概要であるが、当時韓国で活動していた日本人学者に対する調査を充分に行えず、韓国人学会の活動内容、関連新聞記事に対する調査は継続中である。これら残された作業を続け、完成するのが今後の課題である。なお、現在、『朝陽報』に連載された幸徳秋水の『帝国主義』の翻訳について研究を進めており、遠くないうちに、発表する予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）
（１）権　純哲、卞榮晩訳『世界三大怪物』と『二十世紀之大惨劇帝国主義』について ―大韓帝国知識人の帝国主義理解の一端、『埼玉大学紀要（教養学部）』、査読無、第 48 巻第２号、2012、pp.59～121
（２）権　純哲、大韓帝国期の「国家学」書籍におけるブルンチュウリ・梁啓超・有賀長雄の影響、『埼玉大学紀要（教養学部）』、査読無、第 48 巻第１号、2012、pp.73～113
（３）権　純哲、大韓帝国期の「国家学」関係書籍について、『埼玉大学紀要（教養学部）』、査読無、第 47 巻第２号、2011、pp.157～199

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕（計０件）
○出願状況
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○収得状況（計０件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等　なし

６．研究組織
(1)研究代表者
権　純哲（KWON, SOON CHUL）
埼玉大学・教養学部・教授
研究者番号：80253178

(2)研究分担者　なし
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者　なし
（　　）

研究者番号：